

本日の例会 [2536 th] 2020. 9. 3

会員卓話

## 小平 和 広 君

前回の例会 [2535 th] 2020. 8. 27

洋画家

## 沖 津 信 也 氏

- ・ 点鐘12時30分 若林 智次 会長
- ・ 県 民 歌 最 上 川
- ・ ローターソンング 奉 仕 の 理 想
- ・ ソングリーダー 加藤 由香里 君
- ・ S A A 大 浦 英 樹 君

会長あいさつ

若林 智次 会長

皆様こんにちは。

まず初めに本日のお客様をご紹介します。  
洋画家の沖津信也様です。後程スピーチよろしくお願いいたします。

先日夕食時にテレビを見ていましたら、偶然後藤屋さんのキッチンカーが映りました。町内の幼稚園すべての園児に、かき氷を無料で配布するボランティアを行っているようでした。残念ながら鈴木社長はテレビに映りませんでした。かき氷を食べる子供の笑顔が大変輝いていました。本業がコロナウィルスの影響でイベントができない中、素晴らしい事だと思います。

話は変わりますが、私が当クラブの会長を拝命して二か月が経ちました。毎週の会長挨拶の難しさを痛感しています。歴代会長の素晴らしい挨拶に一年間で少しでも近づきたいと思っております。

最後に、暑い日が毎日続きますので熱中症と新型コロナウイルスに十分気を付けてお過ごしください。

それでは、お食事をお取りください。

## スマイルBOX

- ・ 今年度初めてのゲストをお招きいたしました。卓話よろしくお願いいたします。  
若林 智次 君
- ・ 沖津さんには快くお引き受け頂きました。  
鈴木 征治 君
- ・ 秋の純米大吟醸酒頒布会のご案内です。完全受注生産です、よろしくお願い致します。  
梅津陽一郎 君
- ・ キッチンカーで町内8ヶ所の幼児施設(約700名)に「かき氷」を振る舞って来ました。  
鈴木 司郎 君
- ・ 沖津先生には、息子が中学校でお世話になりました。  
井田 裕子 君

## 《お知らせ》

### 公式訪問例会 9月10日(木)

- ・ 会長・幹事会 11時~12時
  - ・ 例会 12時30分~13時30分
- <今年度の活動計画書、RCバッチをお忘れなきよう>

## 《出席報告》

会員数 44名 出席者数 23名 出席率 52.27%  
前回修正44名 出席者数 37名 出席率 84.09%

## 《メイクアップ》

桑島 周士 君・高梨 正章 君・平 清美 君  
長谷川春海 君・玉野 敏安 君・佐藤登与美 君  
戸田 英夫 君・井田 裕子 君・木村 健彦 君  
鈴木 司郎 君・庄司 薫 君・加藤由香里 君  
大浦 英樹 君・片平 琢朗 君・丸山 俊秀 君

今回の例会 [2537 th] 2020. 9. 10

## ガバナー公式訪問例会

ゲスト  
スピーチ 洋画家  
沖津 信也 氏

大変おいしい昼食とあたたかな出迎えありがとうございました。わたしの人生の教育の大恩師が鈴木征治先生であります。そして、おかげさまで、高島一中着任、高島四中着任には大変多くの皆様にお世話になりました。

今日は教員をしながら松尾芭蕉の奥の細道に大変興味があり、回っておりました。現場に行ってみて、感じて初めて句の意味が分かりました。奥の細道の句は曾良日記とは違った、実録と違ってフィクションも入れて壮大なスケールの元、過去・現在・未来これが全部同居しているのが一枚の絵であって、写真とは違って快樂無縁な世界が広がって、その中に美を追求するのが絵画の精神でございます。松尾芭蕉翁の俳句もまたすごいです。そのすごさとは、想像を超える、感動の大きさや質が違う。

## 奥の細道序文

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、去年の秋江上の破屋に蜘蛛の古巣をはらひて、やゝ年も暮、春立る霞の空に白川の関こえんと、そら神の物につきて心をくるはせ、道祖神のまねきにあひて、取もの手につかず。も引の破をつり、笠の緒付かえて、三里に灸すゆるより、松島の月先心にかゝりて、住る方は人に譲り、杉風が別荘に移るに、草の戸も住替る代ぞひなの家 面八句を庵の柱に懸置。

松島の月を見たい。これが旅の動機でした。東北の旅を意味しているのが、奥の細道の句ではないかと言われています。

現地を回りまして、句碑が立っております。その場に行きますと、風が違う、匂いも違う。その場で声に出して句を詠みますとその感動の余韻が少しづつ感じられます。

## 「暑き日を海にいれたり最上川」



スケールがとても大きくて真っ赤な太陽が鉄のような熱い太陽が海に入る、そのような情景を思わせるダイナミックさがあり、全身の毛細血管を全てアンテナにして行



くと画が描け、高島四中時にパピール美術館でのグランプリを受賞し、祝賀会を開いていただきました。2か年間、NHK報道局の方と奥の細道を取り、絵を描いていきました。そのDVDをご鑑賞ください。

## 暑き日を海にいれたり最上川

00年5月、写生に出かけた私は、思わず息をのんだ。蛇行して走る最上川はまるで太陽を目指し、泳ぎゆく巨大な竜のようで、天と地、水と大地が黄色に染まる荘厳な光景が広がっていた。

## あらたふと青葉若葉の日の光



日光の杉並木では巨木の間にたたずむうちにかなたに続く道が時空超越した存在に思えてた。芭蕉が見た風景を超え、目の前に現れたような心持ちだった。そこ事前の木々の影を過去に見立て、道の中の日だまりを現在、奥の木漏れ日を未来の象徴として

描いてみた。



現地に立つと体を風が吹き抜け、川のせせらぎや小鳥のさえずりがこだまする。絵を描くというよりも、草むらの朝露や石畳のコケをきらめかせる日の光を「拾いに行っている」のだ。

全行程をほぼ踏破し、73点を完成。芭蕉の旅を描き、ちっぽけな自分自身は大自然の一部にすぎないと思つた。人生は出会いと別れの繰り返し、たえず旅をするようなものだ。だからこそ人の命は輝き、生き抜くことは素晴らしいのだと実感している。